

V 健やかな「都」をつくる 16 福祉の充実

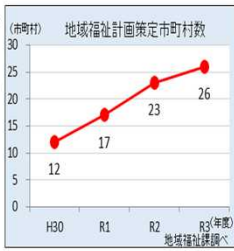
(61) 日本一福祉の進んだ地域を目指す「福祉の奈良モデル」の構築

ここまで良くなりました

福祉の奈良モデルの基本となる考え方は、「困っている人を誰一人排除せず助ける」、「地域の限られた人的、物的資源を活用して地域社会が困っている人を支える」、「県と市町村が連携して寄り添い型福祉モデルを構築する」です。

福祉に対する奈良県の思いは、「県の役割をしっかりと果たしたい」、「福祉を徹底的にやりたい」、「県の努力で社会保障を充実させたい」です。

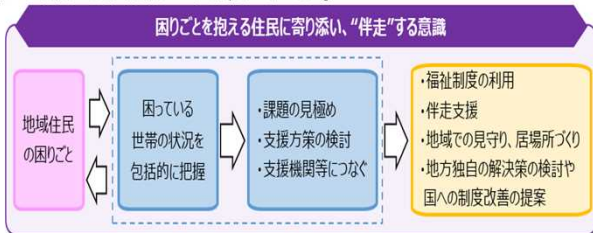
- 地域住民の困りごとの把握から適切な支援へつなぐ仕組みについて検討
- 地域の課題解決に資する人材の育成と活用を推進するため、市町村の取組支援や、コミュニティソーシャルワーク実践研修等を実施
(コミュニティソーシャルワーカー養成人数:
H28 71人 → R3 308人)
- 市町村の地域福祉計画策定を支援
(策定数: H30年4月 12市町村 → R3年4月 26市町村)



もっと良くするために

「福祉の奈良モデル」の考え方に基づく取組を実践するため、令和4年3月の「奈良県人と人及び人と社会がつながり支え合う地域福祉の推進に関する条例」の制定や「第4期奈良県地域福祉計画」の策定により、県の考え方を示し、市町村と連携・協働して包括的な支援体制の整備に取り組みます。

【困りごとの把握から適切な支援へつなぐ仕組みのイメージ図】



- (新) 福祉の奈良モデルの推進 (9百万円)
 - ・市町村向けトップセミナーの実施
 - ・住民の困りごとを把握する人材(一次接触者)等のあり方の検討
 - ・南和地域で活躍する一次接触者や専門職の検討及び養成
- (新) 市町村における福祉の奈良モデル実践支援 (11百万円)
 - ・市町村と連携・協働して包括的な支援体制の整備を推進
 - ・コミュニティソーシャルワーカーの養成と活動を支援

令和4年度予算案 20百万円

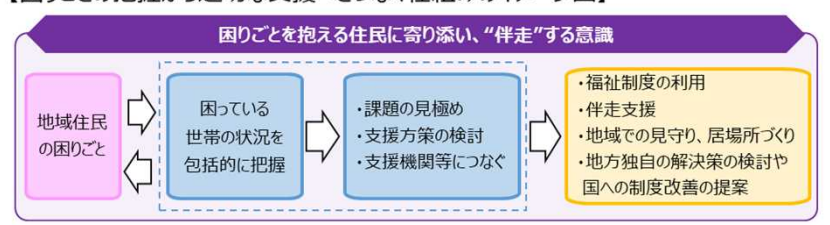
R4 予算案 20,000千円

- 令和4年3月に「奈良県人と人及び人と社会がつながり支え合う地域福祉の推進に関する条例」を制定(予定)

(目的)

「奈良県人と人及び人と社会がつながり支え合う地域福祉の推進に関する条例」及び「第4期奈良県地域福祉計画」に基づき、誰もが排除されない地域共生社会の実現に向け、「福祉の奈良モデル」を実践

【困りごとの把握から適切な支援へつなぐ仕組みのイメージ図】



CSW研修の実施

1. (新) 福祉の奈良モデルの推進 (9,289千円)

- ・ 包括的な支援体制の構築に向けた機運を醸成するため、市町村向けトップセミナー等を開催
- ・ 住民の困りごとを把握する人材(一次接触者)のあり方と市町村における相談支援包括化の仕組みについて、有識者等を交えて検討
- ・ 南和地域において、すでに活躍している一次接触者のスキルアップを図るとともに、多機能職種人材を養成

2. (新) 市町村における福祉の奈良モデルの実践支援 (10,711千円)

- ・ 市町村と協定を締結し、連携・協働して地域の実情に応じた包括的な支援体制の整備を推進
- ・ コミュニティソーシャルワーカー(CSW)を養成するとともに、市町村での活動を支援

<問い合わせ先>

福祉医療部 地域福祉課 下市課長補佐(内線2812)

長寿・福祉人材確保対策課 内田課長補佐(内線3211)

V 健やかな「都」をつくる 16 福祉の充実

(62) 重症心身障害児(者)の居場所の確保

ここまで良くなりました

重症心身障害児(者)および医療的ケア児(者)の身近な居場所^(※)が不足していることから、**身近な地域において生涯にわたり支援を受けられる体制の構築を進めてきました。**
 (※)日中活動の場およびレスパイトのための医療型短期入所等

OR3年1月に、県全体の重症心身障害児者等支援の拠点として、「奈良県重症心身障害児者支援センター」を設置し、専門相談員を配置



日中の居場所の様子

場 所 奈良県障害者総合支援センター内(田原本町)
 業務内容 広域的・専門的な相談支援
 関係機関との連携・調整
 地域の相談支援体制のサポート
 医療的ケア児等コーディネーター等の人材育成

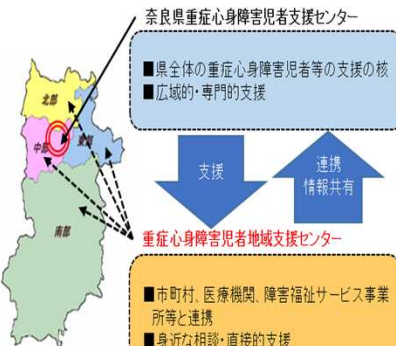
OR3年4月に「奈良県重症心身障害児等の地域生活の支援に関する条例」を施行

○県中部の「奈良県障害者総合支援センター」において、R4年度から新たに重症心身障害児等向け放課後等デイサービスを開始するため整備を推進

もっと良くするために

医療機能と療育機能の最適な連携を図り、身近な地域において安心して暮らすために必要な支援を受けられる体制を、県内全域で整備します。

○身近な地域における相談・直接的支援体制を構築するため、「重症心身障害児者地域支援センター」の設置を促進



○身近な居場所が不足している県東部・南部において、福祉サービス事業所等に対し重症心身障害児者等の受け入れを促進

○地域での居場所を確保するため、重症心身障害児者等の受け入れに対応できる福祉人材等の育成

・(新)重症心身障害児者等支援人材育成モデル事業 (3百万円)

・奈良県重症心身障害児者支援センターの運営 (12百万円)

・県内の医療的ケア児等に対する支援 (8百万円)

令和4年度予算案 23百万円

R4 予算案 22,979千円

1. 南部・東部地域における居場所づくりの推進 (3,160千円)

(1) (新) 重症心身障害児者等支援人材育成(3,000千円)

- 事業所等における重症心身障害児者等の支援に対応できる人材育成をモデル的に実施

(2) 重症心身障害児者等受入促進(160千円)

- 県南部・東部地域における重症心身障害児者を受け入れる医療型短期入所施設や日中サービスの運営主体となる事業所等の発掘・調整



日中サービス(遊び)

2. 県全体の重症心身障害児者支援拠点 (12,294千円)

(1) 重症心身障害児者支援センターの運営(11,815千円)

- ① 重症心身障害児者及び医療的ケア児者の専門相談
専門相談員2名を配置し、広域的・専門的相談を実施
- ② 保健、医療、福祉、教育等の各分野の関係機関のネットワークを強化し、連携して課題と対応策を検討



日中サービス(食事)

(2) 医療的ケア児等コーディネーターの養成(479千円)

- 医療と福祉の両面からサービスを総合調整する人材を育成する研修を実施

3. 協議の場の設置(176千円)

- 重症心身障害児者及び医療的ケア児等の支援のための関係機関による「協議の場」を開催

4. 医療的ケア児等日中一時支援事業 (5,669千円)

- 地域の医療機関の体制を整備し、在宅医療的ケア児等の保護者の介護負担を軽減(レスパイト)

5. 県内児童等が入所する県外民間重症心身障害児施設療育加算金 (1,680千円)

<問い合わせ先>

福祉医療部 障害福祉課 森本課長補佐(内線2839)

V 健やかな「都」をつくる 16 福祉の充実 (63) 出所者の更生・就労支援

ここまで良くなってきました

令和2年4月に「奈良県更生支援の推進に関する条例」を施行しました。

令和2年7月、条例に基づき「一般財団法人かがやきホーム」を設立し、これまで4名の出所者を雇用しました。

【目的】

- ・国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ
- ・誰もが地域の一員として包摂される社会の実現

【手法】

- ・更生支援に関する施策を一体的かつ効果的に実現するため、「一般財団法人かがやきホーム」を設立して、次の事業を実施
- ・罪に問われた者等を雇用、就労の場を提供
- ・住居を貸与
- ・職業訓練、社会的な教育の実施

- ・五條市森林組合において林業研修を実施
- ・法務教官等の専門家による社会的な教育や地域の協力を得て社会奉仕活動を実施
- ・五條市内に住居を確保
- ・財団職員によるきめ細かな相談体制の構築



林業研修

もっと良くするために

更生支援の取組をさらに拡大し、充実させるため、「一般財団法人かがやきホーム」において、新たな就労場の開拓等を行います。

〇出所者等の更生支援

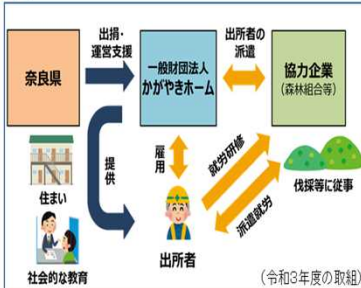
(1)「一般財団法人かがやきホーム」の運営等(61百万円)

- ・直接雇用した出所者に対し、協力企業での就労研修や派遣就労を実施
- ・農業等の新たな就労場の開拓
- ・社会奉仕活動や個人の生活歴に応じた社会的な教育等を実施
- ・相談員による生活相談等の体制を強化

(2)地域生活定着支援センターの運営(27百万円)

- ・高齢者や障害者等で福祉的な支援を必要とする刑務所等出所者の社会復帰を支援

(3)保護観察対象者の県直接雇用やセミナー開催等(4百万円)



(令和3年度の取組)

令和4年度予算案 92百万円

R4予算案 91,975千円

1. 一般財団法人かがやきホームの運営支援等 (88,108千円)

- ・令和2年7月に「奈良県更生支援の推進に関する条例」に基づき、一般財団法人かがやきホームを設立
- ・令和2年9月より出所者を直接雇用
- ・出所者等の円滑な社会復帰を促進するため、法人の運営に必要な財政的・技術的支援を実施

① 出所者の就労の場づくりの推進(59,112千円)

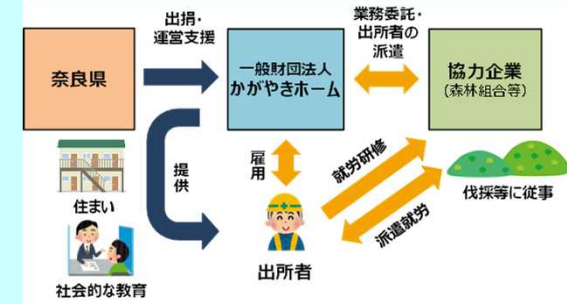
【財団法人の取組】

- ・就労研修
- ・派遣就労
- ・社会奉仕活動
- ・社会的な教育(アンガーマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング等)

② 出所者更生支援の推進(1,756千円)

③ 地域生活定着支援センターの運営(27,240千円)

(新) 刑事手続段階にある高齢者や障害者に対する支援



林業研修

2. 保護観察対象者の県直接雇用やセミナー開催等 (3,867千円)

① 保護観察対象者の県による直接雇用(3,144千円)

保護観察処分に付された者等を県会計年度任用職員として雇用し、雇用期間中に就職を支援(社会技能訓練、インターンシップ等)

② 新たに出所者の雇用を考える協力雇用主の不安解消、ノウハウ習得等を目的としたセミナーの開催(123千円)

③ 出所者が業務上必要とする資格・免許取得経費の補助(600千円)

<問い合わせ先>

福祉医療部 地域福祉課 大隣参事(内線2813)
産業・観光・雇用振興部 外国人・人材活用推進室 吉田室長補佐(内線3572)

V 健やかな「都」をつくる 17 だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり (64) スポーツ振興ビジョンの推進

ここまで良くなりました

総合型地域スポーツクラブの育成支援や奈良マラソンなど参加型スポーツイベントの開催等により、1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人の割合(運動習慣者の割合)は、令和元年度に50%を超えました。

健康寿命日本一を目指す奈良県では、「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」に取り組むことで県民の健康増進を図っています。

○総合型地域スポーツクラブは全市町村に設置されています。(R4年1月現在65クラブ)
○H22年から始まった「奈良マラソン」は冬の風物詩として定着しています。



もっと良くするために

県民一人ひとりが生涯にわたり、その関心、適性等に応じて自主的かつ主体的にスポーツに親しみ、心身の健康を維持・向上できることを目指します。(150万円)

- ・(新)就学前における運動・スポーツを通じたはぐくみの推進
- ・(新)企業版ふるさと納税制度による寄附金を活用したスポーツイベントの開催 など

スポーツの持つ価値や効果が発揮できるよう、アスリート、指導者、ボランティアなどのこれからの奈良県のスポーツ振興を担う人材の育成を目指します。(760万円)

- ・(新)スポーツ人材マネジメント検討会の設置
- ・総合型地域スポーツクラブの育成・充実 など

県民のだれもがスポーツに親しめる環境づくりを目指します。また、スポーツイベント等の開催により、地域交流の促進及び地域の活性化に寄与することを目指します。(770万円〔債務負担行為111百万円、R3・2月補正5百万円〕)

- ・スポーツ拠点施設の整備推進
- ・自転車周遊環境の整備
- ・まほろば健康パークの機能強化
- ・奥大和の特性を活かしたスポーツイベントの開催
- ・奈良マラソン、サイクルスポーツイベントの開催 など

「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を目指し、「奈良県スポーツ推進計画」の策定と条例制定を進めます。(90万円)

- ・(新)近年のスポーツへの関心の高まりや動向、ニーズの変化を踏まえた次期計画の策定(R5～9年度までの5カ年計画)

令和4年度予算案 870百万円

〔債務負担行為111百万円〕

令和3年度2月補正予算案 5百万円

R4予算案 870,195千円 [債務負担行為 110,852千円]、R3・2月補正予算案 5,200千円

①「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を目指す奈良県スポーツ振興のマスタープラン「奈良県スポーツ推進計画」の策定(9,000千円)

(新)近年の運動・スポーツへの関心の高まりやスポーツを取り巻く動向、県民のスポーツへのニーズの変化を踏まえた次期「奈良県スポーツ推進計画」を令和4年度中に策定 (令和5年度～9年度の5カ年計画)

②国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催を契機とした持続的なスポーツ振興

健康増進のためのスポーツの推進(14,835千円)

- ・(新)就学前における運動・スポーツを通じたはぐくみ推進事業
- ・(新)企業版ふるさと納税による寄附金を活用した地域スポーツ推進事業
- ・(新)オール奈良県による国スポ・障スポ盛り上げ推進事業
- 市町村対抗子ども駅伝大会開催事業 ほか



運動の推進(イメージ)

奈良県のスポーツ振興を担う人材の育成(75,898千円)

- 総合型地域スポーツクラブ育成・充実事業
- 「まってる！花園」開催事業
- 地域部活動推進事業
- ・(新)スポーツ人材マネジメント事業
- ・(新)青少年スポーツ国際交流事業 ほか



まற்றろ！花園

スポーツに親しめる環境づくりと地域の交流促進及び地域の活性化(770,462千円、R4債務負担行為110,852千円、R3・2月補正予算案5,200千円)

- スポーツ拠点施設整備推進事業
- 自転車周遊環境整備事業
- まほろば健康パーク機能強化検討事業
- 奈良マラソン開催支援事業
- サイクルスポーツイベント開催支援事業
- 奥大和トレイル推進事業 ほか



奈良マラソン2021



京奈和自転車道

<問い合わせ先>

文化・教育・くらし創造部 スポーツ振興課 椋本課長補佐(内線5271)

V 健やかな「都」をつくる 17 だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり

(65) 奈良県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催に向けての検討

ここまで良くなりました

令和13年奈良県開催の内々定があり、令和3年11月24日に奈良県準備委員会の設立総会、第1回総会、第1回常任委員会を開催し、大会の開催基本方針などが決定されました。

大会開催に向けて、主会場等に必要なおもてなし施設の整備を目指し、検討を進めてきました。

○橿原市及び磯城郡3町(川西市、三宅町、田原本町)からの要望をもとに協議を進め、R3年5月に事業推進のための「覚書」または「協定」を締結しました。

＜国民スポーツ大会主会場に必要な施設＞



R4予算案 78,555千円

1. スポーツ拠点の整備推進

- (1) **スポーツ拠点施設整備実施計画等の策定(28,500千円)**
2031年(令和13年)の奈良県での国体開催とその先の将来を見据えて、運動・スポーツ、地域振興の拠点となる施設の整備に関する実施計画を策定
- (2) **スポーツ拠点施設整備のための測量・調査(44,600千円)**

2. 奈良県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催準備

- (1) **奈良県準備委員会の運営(3,655千円)**
総会、常任委員会、各種専門委員会を運営し、大会構想の検討、競技会場の選定などを実施
- (2) **スポーツ人材育成検討会(1,000千円)**
さまざまな機関・団体と連携し、今後の奈良県のスポーツ人材の充実を図るための方策を検討
- (3) **具体的な取組(アクションプラン)の検討・作成(800千円)**
地域の魅力発信、持続的なスポーツ振興、健康増進へとつながるイベントや取組について、プロジェクトチームを立ち上げ、奈良県独自のアクションプランを策定

もっと良くするために

市町村や競技団体、大会開催に協力が
必要な関係者と連携し、円滑な大会開催に向けて準備を進めるとともに、**持続的なスポーツ振興や県民の健康増進、地域活性化の契機となる大会のあり方を検討**します。

大会の主会場や競技会場になるとともに、**多世代・多様な人々が、日常的に集い、運動・スポーツ、健康増進、地域の経済活性化につながるスポーツ施設の整備を推進**します。

- 奈良県準備委員会を運営(4百万円)
・大会基本構想の検討
・競技会場地市町村の選定
・競技役員養成計画の策定 など
- (新)大会を盛り上げ、開催効果が県全域に波及するよう、全市町村が参画できる仕組みや取組の検討(1百万円)
・県・市町村による検討体制を設立
・奈良県独自のアクションプランを策定
- (新)スポーツ人材のマネジメント(1百万円)
・さまざまな機関・団体と連携し、今後の奈良県のスポーツシーンを支える人材の充実を図るための検討会を設置



令和4年度予算案 79百万円

【イメージ】

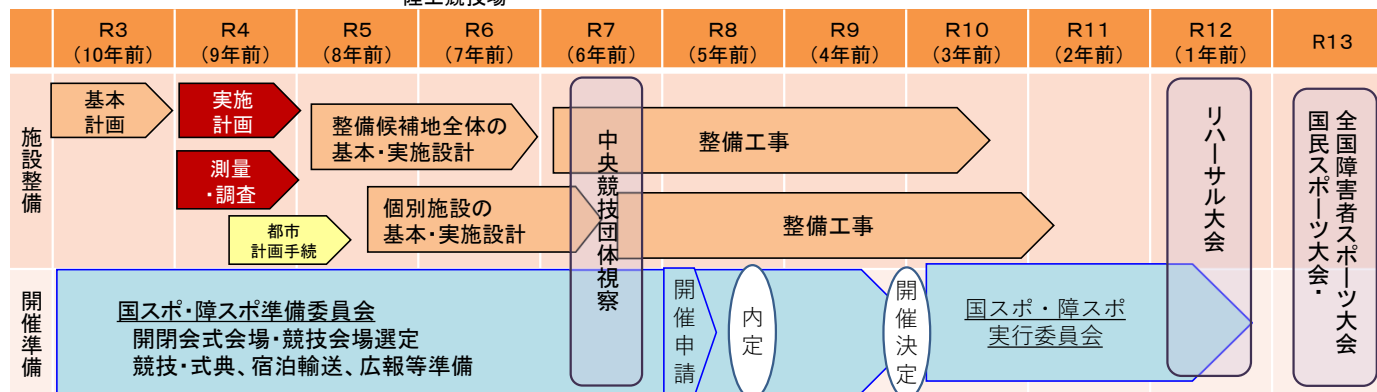


(参考)滋賀県彦根総合運動公園



(参考)滋賀県 滋賀アリーナ

【スケジュール】



＜問い合わせ先＞

文化・教育・くらし創造部 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室 田仲室長補佐(内線5317)

V 健やかな「都」をつくる 17 だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり (66) まほろば健康パークの機能強化

ここまで良くなってきました

浄化センター公園を再整備し、平成26年度に「まほろば健康パーク」としてリニューアルオープン。年間32万人以上(R1年度)の皆様にご来園いただいています。



「スィムピア奈良」50m屋外プールの観客席・膜屋根等が令和3年6月に完成し、国際大会や全国大会等の招致もできるようになりました。

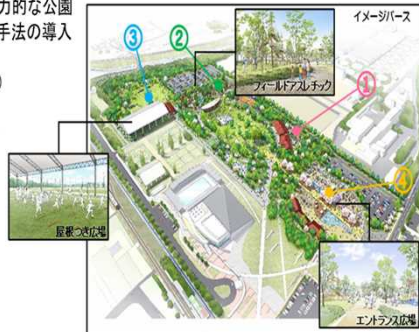


もっと良くなるために

令和9年度の開園を目指し、新たに隣接地(8.6ha)を活用した「みんなが憩い楽しみ、子どもが遊びや運動を通して成長する公園づくり」に取り組みます。
(R4年3月基本計画策定予定)

まほろば健康パークの機能強化について、民間活力導入による事業化を推進
・民間のノウハウを活かした魅力的な公園とするための整備・管理運営手法の導入に向けた手続きの推進
(R5年度の事業者決定を予定)

◇機能強化におけるゾーン別施設配置計画



令和4年度予算案 63百万円(債務負担行為10百万円)

R4予算案 62,644千円 [債務負担行為 9,500千円]

まほろば健康パークの機能強化について、民間活力導入による事業化を推進

「みんなが憩い楽しみ、子どもが遊びや運動を通して成長する公園」を目指して公園エリアを拡張し、まほろば健康パークの機能強化を検討

- [R4年度]
- ①雨水調整池実施設計
 - ②植生調査
 - ③民間活力導入手続き

スケジュール

R4	民間活力導入手続き 雨水調整池実施設計、植生調査	R6	雨水調整池整備工事 公園実施設計
R5	民間活力導入手続き 雨水調整池整備工事 公園実施設計	R7	公園整備工事
		R8	
		R9	開園

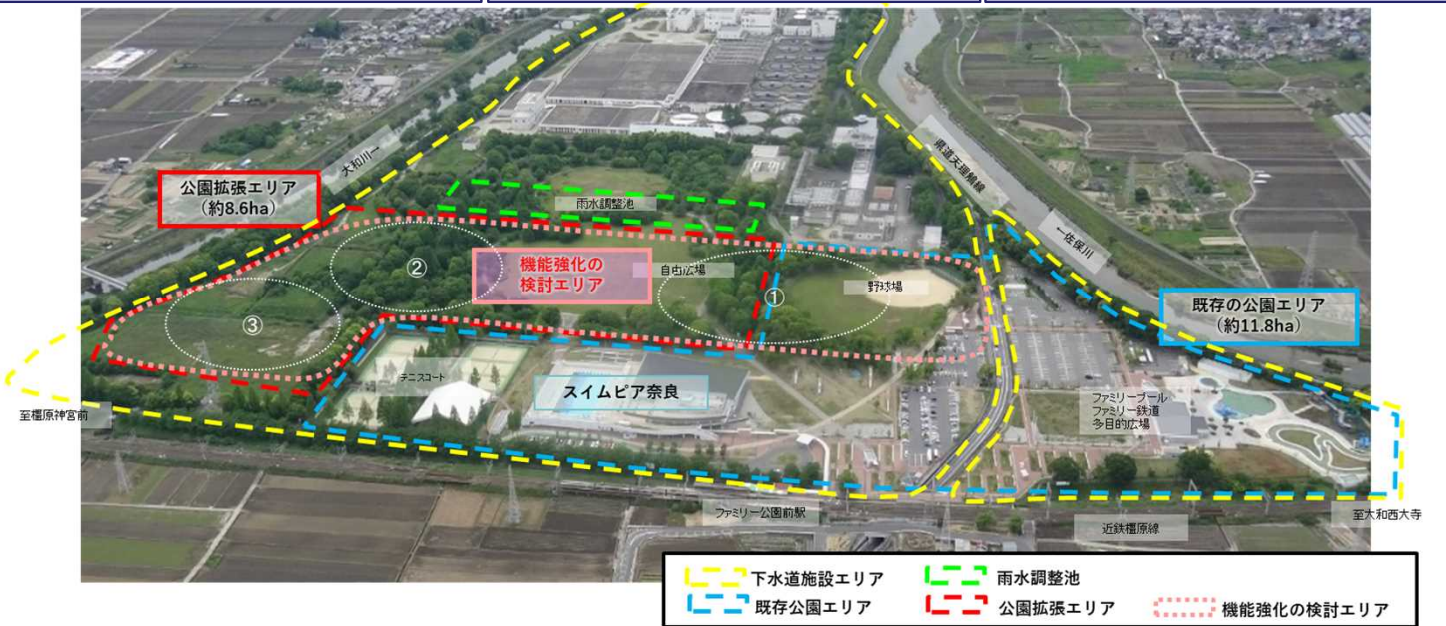
①乳児・幼児が遊びを通して成長できる施設ゾーン
対象年齢:6ヶ月~5歳



②子どもが遊びや運動を楽しみ上達する施設ゾーン
対象年齢:3歳~10歳



③子どもが目標に向かって取り組むスポーツ施設ゾーン
対象年齢:8歳~15歳



<問い合わせ先>

地域デザイン推進局 公園緑地課 西城主幹(内線4327)